

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																							
北海道芸術デザイン専門学校		昭和51年4月1日		根上 和也		〒001-0024 (住所)北海道札幌市北区北24条西8丁目1-12 (電話)011-756-0777																							
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																							
学校法人美専学園		昭和62年12月4日		増田 涼平		〒001-0024 (住所)北海道札幌市北区北24条西8丁目1-12 (電話)011-756-0777																							
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																						
文化・教養	専門課程	産業デザイン学科 (グラフィックデザイン専攻)				平成7年1月23日 文部科学省告示第7号	-																						
学科の目的	産業デザイン学科(グラフィックデザイン専攻)の各分野に関するプロ養成に必要な、「基礎から実践」までを教育することを目的とし、次の事項に重点的に取り組む。 ・各分野のプロになるための技術や知識を学ばせ就職させる。 ・いかに学生・保護者・就職先企業等のニーズに応えるか、各分野における諸課題を主体的・創造的に研修し、実務的な職業教育を施す。																												
認定年月日	平成26年3月31日																												
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																						
2年	昼間	2400時間	300時間	2100時間	0時間	0時間	0時間																						
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																							
320人		79人	0人	2人	19人	21人																							
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 授業担当教員が課題の成果・提出状況・出席状況等を総合的に評価する																								
長期休み	■学年始:4月1日～4月5日 ■夏季:7月18日～8月17日 ■冬季:12月20日～1月14日 ■前期末:9月19日～9月27日 ■学年末:3月5日～3月31日			卒業・進級条件	教育指導計画にしたがって、授業科目を履修し、その成果が満足できると認められるときは、各学年の修了・進級または卒業を認定する。 卒業必要授業数2400単位時間。																								
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 面談及び保護者との連携			課外活動	■課外活動の種類 北海道私立専修学校各種学校連合会札幌支部体育事業の参加、ボランティア、学園祭等の実行委員会等 ■サークル活動: 無 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業者に係る令和5年5月1日時点の情報)																								
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和4年度卒業生) 広告、印刷、web、広告代理店、インハウス、カメラスタジオ他			主な学修成果(資格・検定等)※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ADEC色彩士検定3級</td> <td>③</td> <td>38人</td> <td>38人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定・ジョブパス</td> <td>③</td> <td>38人</td> <td>37人</td> </tr> <tr> <td>Illustratorクリエイター能力認定試験</td> <td>③</td> <td>38人</td> <td>35人</td> </tr> <tr> <td>Photoshopクリエイター能力認定試験</td> <td>③</td> <td>23人</td> <td>14人</td> </tr> </tbody> </table>					資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ADEC色彩士検定3級	③	38人	38人	ビジネス能力検定・ジョブパス	③	38人	37人	Illustratorクリエイター能力認定試験	③	38人	35人	Photoshopクリエイター能力認定試験	③	23人	14人
	資格・検定名	種	受験者数		合格者数																								
	ADEC色彩士検定3級	③	38人		38人																								
	ビジネス能力検定・ジョブパス	③	38人		37人																								
	Illustratorクリエイター能力認定試験	③	38人		35人																								
	Photoshopクリエイター能力認定試験	③	23人		14人																								
■就職指導内容 一年次より就職ガイダンスを開催。二年時には就職課、担任を含めた三者面談を複数回行う。			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																										
■卒業者数 : 38 人			■自由記述欄 ・JFN学生ラジオCMコンテスト2022(北海道・東北ブロック賞1名) ・JAGDA国際学生ポスターアワード2022(入選4名) ・日本タイポグラフィ年鑑2023 学生部門(入選2名)																										
■就職希望者数 : 33 人																													
■就職者数 : 32 人																													
■就職率 : 96.9 %																													
■卒業者に占める就職者の割合 : 84.2 %																													
■その他 ・進学:1名 ・フリーランス:1名 ・臨時的な仕事:3名																													
(令和4年度卒業者に係る令和5年5月1日時点の情報)																													
中途退学の現状	■中途退学者 1名 令和4年4月1日時点において、在学者74名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者73名(令和5年3月31日卒業者を含む)			■中途退学率 1.4%																									
■中途退学の主な理由 進路変更																													
■中退防止・中退者支援のための取組 補習の実施と保護者への連絡・連携、転科の実施等																													
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有(無) パブリック奨学制度、スカラシップ奨学制度、交換留学奨学制度等 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象(非給付対象) ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																												
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有(無)																												
当該学科のホームページURL	https://bisen-g.ac.jp/course/commercial/graphic/																												

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校の教育目標「各専攻における専門教育および職業教育の確立」を達成するために、指導内容や各種特別活動等を総合的に組織する一連のPDCAサイクルにおいて、教育課程編成委員会でその教育効果を検証し、企業等委員からの意見・助言を取り入れ、開設科目編成や授業内容の改善等を図っていくものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

年2回開催される本委員会は、委嘱委員から経営者等としての視点による助言を受け、即戦力となる人材育成のために、学生がインターンシップや職場体験、現場見学等を経験できる機会を創出する等、社会人としての基礎力および実務スキル向上につながる授業内容や指導方法の改善に取り組むための、意見交換および教育効果検証の場として位置付ける。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
佐野 公康	株式会社デービス 代表取締役	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
佐藤 正人	北海道イラストレーターズクラブα 名誉会長	同上	①
堀川 敦史	(株)サイクロンゼロ 開発部マネージャー	同上	③
大内 利章	(株)自然農園 代表取締役社長	同上	③
杉山 宗英	北海道インテリアプランナー協会 会長	同上	①
薄木 健友	(株)花佳 代表取締役	同上	③
赤坂 真一郎	(株)アカサカシンイチロウアトリエ 代表取締役	同上	③
鈴木 理	(株)鈴木理アトリエ級建築士事務所 代表取締役	同上	③
根上 和也	北海道芸術デザイン専門学校 校長(委員長)	同上	—
高橋 美絵	同 教務部長	同上	—
飯塚 哉子	同 学務部長・建築デザイン学科長	同上	—
高畑 文一	同 産業デザイン学科長	同上	—
田中 政史	同 マルチメディアデザイン学科長	同上	—
桂 充子	同 環境デザイン学科長	同上	—
稲葉 未紗	就職課主任	同上	—

※委員の種別の欄には企業等委員の場合、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期) 開催頻度:年2回、開催時期:8月下旬および2月上旬

(開催日時(実績))

第1回 令和4年8月24日 16:00～18:00

第2回 令和5年2月3日 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

・第1回教育課程編成委員会が出された意見や助言を踏まえ、改善点があれば、可能なものは後期の授業から、その他については次年度の教育課程編成に際して反映させ、第2回教育課程編成委員会で新年度教育課程案として提案している。

・デジタルポートフォリオが増加してきているという観点から、専攻により1年後期から段階的にデジタルを含めたポートフォリオの制作を行う授業内容を強化した。

・知的財産権について、SNS・ネット画像を参考に作品を発表する機会やコンペなどに応募が多く発表した作品が知的財産権に該当する恐れもある為、昨年、弁理士の方に特別講義を行った。今年度は専攻により、特別講義または全4回で集中講義を行って頂いている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校の教育目標「各専攻における専門教育および職業教育の確立」達成のため、各専攻関連分野の企業および業界団体と連携し、実践的な職業教育の実施に必要なカリキュラムの作成、講義および研修の実施、各種教材の作成等において、緊密な協力体制を構築・維持するものとする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

- ・ 職業教育協定書に基づき、各専攻関連分野の企業および業界団体から、各専門分野の指導講師として人材の派遣を受ける。
- ・ 担当教科目の指導計画について事前に協議し、各教科目のねらいに沿って授業内容や実施方法、評価の観点等についてまとめた指導計画書（シラバス）を作成し、教務部へ提出する。

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
応用技術演習 (印刷・レイアウト演習)	中綴小冊子の企画から実制作を通して、Adobe IllustratorとPhotoshopを使用したデジタル入稿から校正・製本までのプロセスの理解と、必要な情報を視覚的に分かりやすくレイアウトする紙面構成のトレーニングを目的として演習を行う。 さらに、実務とワークフローの理解のために企業訪問・工場見学を実施し、製造工程の理解を深めさせる。	白馬堂印刷株式会社
総合技術演習 (グラフィック表現 テクニック)	アートディレクター・グラフィックデザイナーにとって重要視される「獨創性」「着眼点」に対し、「表現」というフィルターを通すことで感性を磨くと共に、各自が秘めている可能性を見つけ出す。 様々な表現に見る・触れることで、作り手の着眼点を発見する。 また、オリジナルの表現を作る・見せることを意識しながら、新たな可能性を引き出すための演習を行う。	公益社団法人 日本グラフィックデザイン協会 北海道道央地区
基礎技術演習 (グラフィック基礎Ⅱ)	造形要素の特性を把握し、プロポーションやコンポジション、シンメトリーなど、造形要素がもたらす造形秩序と配色の調和について、演習課題制作を通じて習得していくとともに、制作物の目的やターゲット層を意識しながら、クライアントワークに挑戦する。 また、公的な広報キャンペーンのためのポスターデザイン制作を通して、伝えようとする内容について理解、把握したうえで、誰に向けてのメッセージなのか、どのような表現が効果的なのか、多様な角度・視点から考察し、表現方法の可能性を追究する。	有限会社ホライズン
総合技術演習 (DTP演習Ⅲ)	制作演習を通じてAdobe InDesignの基礎操作を学びながら、マージンや文字組に配慮したレイアウト力を強化する。企画力の向上も図り、現場に即した制作のワークフローを学びながら、InDesignによる入稿方法を学ぶ。 また、エディトリアルデザインにおける企画立案・取材・協働作業・校正の技術を修得しながら、タイトルやビジュアル、写真の扱いなどページを意識したデザインの完成度を高め課題制作を行う。	札幌アートディレクターズクラブ
総合技術演習 (広告デザイン演習Ⅱ)	コピーライティング・タイポグラフィ・プランニング等、広告制作において、幅広い視野をもち、戦略的かつ効果的な広告企画を展開できる実践方法を学ぶ。 演習課題制作を通じて、ビジュアル撮影やコピーワークも含めた、総合的な広告制作のノウハウとテクニックを身に付け、一つの着地点に対して多面的なアプローチができる習慣を身に付けさせる。	有限会社 クォーターパックスクリエイティブ

<p>3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係</p>
<p>(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針</p> <p>(教員の研修等の基本方針)</p> <p>本校教職員研修規程に基づき、研修は、教職員が現在就いている職に係わる職務の遂行に必要な知識、技能、資質等の向上を図ることを目的とし、そのため教職員の資質に応じた研修計画を策定し、校内外で催される必要な研修を受ける機会を学園として認め、経費を負担することとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員は、業務に支障のない限り、理事長の承認を受け校外の産業現場等、勤務場所を離れて研修を行うことができるものとする。 ・各専攻関連分野の業界団体主催による各種技能研修や、ICT機器・アプリケーションソフト関連セミナー等の受講機会を確保し、最新の実務知識・技術・技能の計画的修得および向上に努める。
<p>(2) 研修等の実績</p> <p>① 専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>研修名「New Education Expo2023(企業等:New Education Expo 実行委員会)</p> <p>期間:令和5年6月3日(土) 対象:学校・教育関係者など</p> <p>内容:教育の情報化の現状と課題</p> <p>研修名「ポートフォリオブラッシュアップ」(企業等:株式会社DEVIS)</p> <p>期間:令和5年6月22日(木) 対象:学生・教育関係者など</p> <p>内容:現役デザイナーが学生ポートフォリオの添削を行う</p> <p>② 指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>クリエイターのための著作権 連携企業等:札幌北商標法律事務所</p> <p>期間:令和4年9月 対象:内部教職員・学生 内容:知的財産権についての事例やQ&A</p> <p>令和4年度 第2回文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会 「学生指導に活かす認知行動療法」</p> <p>主催:北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会(対象:教育関係者/内容:ADHD/学生の指導方法について)</p> <p>期間:令和4年12月22日(水)</p> <p>研修名:夏季教職員研修会「ハラスメント防止講習」(連携企業:株式会社インソース)</p> <p>期間:令和5年7月25日 対象:本校教職員</p> <p>内容:学生へのハラスメント防止及び個人情報取り扱いに関する意識向上</p>
<p>(3) 研修等の計画</p> <p>① 専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>クリエイターのための著作権 連携企業等:札幌北商標法律事務所</p> <p>期間:令和5年4月～9月中旬 対象:内部教職員・学生 内容:知的財産権についての事例やQ&A</p> <p>モリサワ認定校オンラインセミナー 主催:株式会社モリサワ</p> <p>期間:令和5年10月(予定) 対象:内部教職員・学生 内容:モリサワの講師による「文字・組版セミナー」</p> <p>② 指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>研修名:令和5年度 第1回文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会</p> <p>主催:北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会</p> <p>期間:令和5年8月1日(火) 対象:(公社)北海道私立専修学校各種学校連合会会員校及びその他の教職員</p> <p>令和5年12月頃 文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会</p> <p>主催:北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会 対象:教育関係者生/内容:人材育成</p>
<p>4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係</p>
<p>(1) 学校関係者評価の基本方針</p> <p>自己評価と学校関係者評価を実施することで、学校の現状と課題を的確かつ具体的に把握して学校運営の改善、強化を目指すものである。また、同時に関係する企業等との信頼関係を深めることを基本方針としている。</p>

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標・人材育成像	理念・目的・育成人材像など学科の特性が明確になっているか 各学科の教育目標・育成人材像は業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2)学校運営	目標等に沿った学科運営方針が明確になっているか 教育活動に関する情報公開が適切になされているか
(3)教育活動	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が示されているか 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか 資格取得の指導體制はカリキュラムの中で体系的に位置づけられているか 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる指導體制を確保しているか
(4)学修成果	就職率の向上が図られているか 退学率の低減が図られているか
(5)学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか
(6)教育環境	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか 防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動は適正に行われているか 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
(8)財務	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 財務について会計監査が適正に行われているか
(9)法令等の遵守	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
(10)社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
(11)国際交流	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

令和4年度より学校関係者評価委員会の開催時期を早めたことで、自己点検・評価で明らかになった課題の早期解決・改善に資することができるようにした。歴史と伝統のある道内有数の専門学校として、不易と流行を踏まえながら、時代や業界が求める人材の育成のため教育課程や学生指導について改善に努め、また職業実践専門課程校として、連携する企業との学生に係る情報の共有の充実を図った。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
河村和義	(株)アトリエK一級建築士事務所	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	企業関係者
櫻井俊二	(有)I.B.DESIGN	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	卒業生・企業関係者
山森鉄雄	元、山森鉄雄司法書士事務所	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	企業有識者
細木 実	(株)asclair	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	卒業生・企業関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.bisen-g.ac.jp> (北海道芸術デザイン専門学校) <https://www.iyaku.ac.jp> (北海道医薬専門学校)

公表時期: 令和5年6月5日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校の状況(課題や教育活動の取組)を広く理解してもらい、さらに企業等との信頼関係を深める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	経営方針、学校の特色、新型コロナウイルス感染症対策
(2)各学科等の教育	カリキュラム、収容定員、学修成果、資格取得等の実績、卒業生の進路
(3)教職員	各教員の担当科目、教員の専門に関する情報
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職支援等への取組状況、実習等の取組情報

(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況
(6) 学生の生活支援	学生支援への取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い、活用できる経済的支援措置の内容等
(8) 学校の財務	事業報告書、収支計算書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	留学生の受け入れ・派遣状況
(11) その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.bisen-g.ac.jp> (北海道芸術デザイン専門学校)

授業科目等の概要

(文化教養分野専門課程 産業デザイン学科(グラフィックデザイン専攻))令和5年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			デザイン概論	社会の中でグラフィックデザインがどのような役割を担っているのか、各種事例研究を通じて理解するとともに、アートとデザインの違い、広告制作をはじめとした何らかの情報伝達を行う際に、クリエイターとして留意すべき点等について学ぶ。	1 前期	30	1	○	△		○		○		
○			基礎造形Ⅰ	前半は検定試験公式テキストを使用し色彩理論の基礎を学ぶ。後半は基礎的な平面構成課題を通して構成力・イメージの抽象表現力・実用的な色彩感覚等を養う。	1 前期	30	1	△	○		○			○	
○			基礎造形Ⅱ	平面から立体へ展開しながら、紙という材料の基本的な加工方法や、その特性、紙を使った造形の可能性を学ぶ。素材や資料の研究、アイデアを形にするための積極的な実行力や企画力、的確な計画性などの重要性を理解する。	1 後期	30	1	△	○		○			○	
○			コンセプトメイキング	テクニックを習得する前に身に付けておくべきデザインの本質的な価値や機能を学び、クリエイティビティの幅を広げるための多角的な視点を得る。	1 前期	60	2		○		○			○	
○			デッサン	最も重要な基本的技術であるデッサン力を学ぶ。繰り返しデッサンを描くことで必要なさまざまな技術、特にグラフィックデザイナーに必要な「観察力」を養う。決められた時間でモチーフ、モデルを観察して素描するクロッキーを通じて、物事を観察し、理解し、言語化できることを目指す。	1 前期	60	2		○		○			○	
○			グラフィック基礎Ⅰ	各種トレーニング課題を行いながら、様々なデザイン用具の基本的な使い方・デザインの基礎知識を習得し、デザインの魅力や表現する楽しさを体験するとともに、文字情報の扱い方のスキルを身に付ける。	1 前期	60	2		○		○			○	

○			グラフィック 基礎Ⅱ	造形要素の特性を把握し、プロポーションやコン ポジション、シンメトリー等造形要素がもたらす秩 序と配色調和について学ぶ。後半では制作物の 目的やターゲット層を意識しながら、前半の学び を応用した課題制作に取り組む。	1 前期	60	2		○	○					○	
○			印刷・ レイアウト 基礎	単色印刷からフルカラー印刷まで、演習課題を通 じて文字組とレイアウトの基礎テクニックを習得し ながら、ひとつの印刷物が出来上がるまでのワー クフローを理解する。	1 前期	60	2		○	○					○	○
○			DTP演習Ⅰ	アプリケーションの特性・基本的な操作方法、デ ジタルデータの基礎知識や管理の方法を学ぶ。 IllustratorとPhotoshopの特性の特徴の理解・役 割の把握・連動させた操作など、反復練習でスキ ルの習得を目指す。	1 前期	60	2		○	○					○	
○			基礎デザイン Ⅰ	グラフィックデザインの重要な構成要素である「文 字」について演習を通して基礎知識から実践まで 理解する。文字の歴史やレタリング、タイポグラ フィの基礎知識や技術、書体(フォント)の種類と イメージについて広く学びながらリサーチ力と応 用力を身に付ける。	1 前期	60	2		○	○					○	
○			ビジュアル 表現	各種画材(水性色鉛筆、パステル、ガッシュ、マー カー)の基礎的な知識と使い方を学び、その中か らそれぞれの画材の持つ印象を理解し、イメージ に合わせた画材選びを工夫する。デジタルとは異 なる表現方法を研究し、様々な課題制作に応用 できる自由な発想力を身に付ける。	1 前期	60	2		○	○					○	

○			パッケージデザインⅠ	市場に出回っているパッケージにはどのような種類(構造・包装材料・印刷方式等)と機能(情報伝達・商品保護・可搬性等)があるのか学習し、パッケージデザインが消費者に対して果たしている役割について理解する。	1 後期	30	1		○	○	○								
○			グラフィック表現テクニック	企業と消費者をコミュニケーションするアートディレクター・グラフィックデザイナーにとって重要視される「独創性」「着眼点」に対し、「表現」というフィルターを通すことで感性を磨くと共に、各自が秘めている可能性を見つけ出す。	2 前期	60	2		○	○								○	
○			インフォメーションデザイン	コトバだけでは伝わりにくい情報を視覚化することで、より分かりやすく伝えるのがインフォメーションデザインである。複雑な情報を整理・分析し、他社に分かりやすく伝えるための表現方法を学ぶ。また、編集やレイアウトの工夫で、より効果的に伝達する方法を総合的に学ぶ。	2 前期	60	2		○	○								○	
○			コミュニケーションデザイン	あらゆるデザインの前提になるのが「コミュニケーション」であることを踏まえ、1年時の「コンセプトメイキング」の授業をより実践的な形で継承することで、思考>発見>表現>評価の一貫した作業を通じて、人とデザイン、社会とデザインの関わりを学ぶ。	2 前期	60	2		○	○								○	
○			広告デザイン演習Ⅱ	課題制作を通じて、広告制作の現場が今必要としている人材を育成していく。広告とは何か?ということを改めてしっかりと理解し、実際の仕事におけるデザイナー・アートディレクターとして制作プロセスを学ぶ。	2 前期	60	2		○	○								○	○
○			DTP演習Ⅲ	制作演習を通じてInDesignの基礎操作を学びながら、マージンや文字組に配慮したレイアウト力を強化する。さらに企画力の向上を図りつつ、現場に即した制作のワークフローを学び身につける。	2 前期	60	2		○	○								○	
○			DTP演習Ⅳ	1年次で習得した各種デジタルアプリケーションの応用的使い方、卒業制作等大型作品の入稿用データ制作方法、就職活動に用いる作品ファイルの制作等について学ぶ。オフセット方式を主とした印刷に関する知識を深めるとともに、検定試験受験に対応した学習を通じてスキルの定着を目指す。	2 前期	60	2		○	○	○								

○		Web デザイン II	Adobe XDを利用し、PC向け・スマートフォン向け、それぞれの画面サイズに適したWebページのデザインンプを作成する方法を学ぶ。DTPデザインとWebデザインの違いを知り、Web特有のグリッドシステムやフォントを理解する。ワークショップを通して、Webサイトの目的やユーザー視点を体験する。	2 前期	60	2	○	○	○										
○		専門技術演習 I	デザイン制作における様々な表現手法を学ぶとともに、トーン&マナーを踏まえたアートディレクション、ライティングや演出などワンランク上の撮影テクニックの習得、目的に沿ったブランディングデザイン等、選択制により各分野について専門的に学ぶ。	2 前期	60	2	○			○									
○		専門技術演習 II	デザイン制作における様々な表現手法を学ぶとともに、シルクスクリーンの印刷技法、広告媒体制作におけるプランニングの総合的なノウハウとテクニック、マーケットリサーチ・企画立案・構造・材料等を総合的に学ぶパッケージデザイン等、選択制により各分野で専門的に学ぶ。	2 前期	60	2	○			○									
○		英語	義務教育で習った英語の基本を再確認し、芸術分野、デザイン分野の職業の中で、英語を使用する場面に必要な英語力を習得する。	1 前期	30	1	○					○							○
○		キャリアプランニング I	自らのキャリア形成について主体的に取り組めるようにするため、キャリアデザインの概念およびデザイン業界の職種とその仕事に対する理解を深める。また、ビジネス能力検定ジョブパス3級受験に向けた学習を通して、職業観の醸成および社会人基礎力の向上を図る。	1 後期	30	1	○	△				○							○
○		キャリアプランニング II	就職活動に際し自己をどのようにアピールしていくのが効果的か、具体的な方法を考察しながら、業界のプロとして仕事をする「職業人」となるために求められる要素を自覚するとともに、卒業後の生活設計を具体的にイメージし、ライフデザインプランを立案する。	2 通年	90	3	○	△				○							○
○		職業実践演習	自らのキャリアプラン(進路設計)を具体的に推進していくために必要なリサーチ力・プレゼンテーション力等の向上を図ると共に、インターンシップ・企業訪問・面接等の具体的な就職活動に対応できる社会人基礎力を身に付け、希望する業種・職種への就職達成を目指す。	2 後期	60	2	○	△				○							○
○		前期課題制作 I・II	日常の講義や演習を通して学んだ発想、技法を活かし、前期のまとめとして課題制作を行う。	1・2 前期	60	2	○					○							○

○			後期課題 制作Ⅰ・Ⅱ	日常の講義や演習を通して学んだ発想、技法を活かし、後期のまとめおよび進級制作や卒業制作の準備と展開等を踏まえて課題制作を行う。	1・2 前期	60	2		○	○	○			
○			進級制作	一年間の学習で身に付けた専攻の専門知識と技術を集大成した作品を制作する。	1 後期	180	6		○	○	○	○		
○			卒業制作	二年間の学習で身に付けた専攻の専門知識と技術を集大成した作品を制作する。	2 後期	450	15		○	○	○	○		
合計			38科目			2400単位時間(80単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
各学年の教科目を履修・修得し、卒業制作の審査に合格した者は、第2学年の課程の修了が認められ、卒業が認定される。卒業時必要履修授業時数2,400単位時間。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。